

# 現代社会を生き抜く主権者育成を目指したN I E実践

～学校総体で取り組むための環境づくりを通して～

都城市立小松原中学校

教諭 上玉利 禎 也

## 1 はじめに～N I Eの目的について～

学力向上は、我が国、そして、宮崎県教育界の喫緊の課題である。児童生徒の学力を向上させるために様々な手立てが講じられ、家庭、学校、地域社会、教育行政等による懸命な取組の結果、課題が残るものの一定の成果が見られる。

そのような中、「なぜ学力向上が必要なのだろうか」と考えた時、私たち教職員には、「テストのため」、「進学のため」、「就職のため」等々、実に様々な答えが浮かんでくる。そのいずれもが現実的なものであり、当を得たものである。しかしながら、それらは、正鵠を射たものであるとは言い難いように思われる。

それでは、学力向上の目的は何か。それは、現代社会のこれからの予測できない変化に、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくためである。すなわち、個人の自己実現と社会の発展のための原動力、そのための学力向上でなければならない。これは、教育基本法における教育の目的「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」にも通ずるものである。

私たちがN I Eに取り組む理由もまた然りである。N I Eには、社会への興味関心の喚起や読解力向上、社会的認知の拡大等、学力向上に関わる様々な効果が期待できる。つまり、教育の目的と理念を一にした「自身の自己実現を図り、社会の発展に主体的に参画する生徒の育成」を目指すという目的であると言える。

## 2 学校教育と主権者教育～よりよい主権者を育む学校教育～

学校では、教育基本法や学習指導要領の理念を具現化するために、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができるよう、個々人の直面する課題や社会の多様な課題に対応した教育を実施してきた。

さらに、平成27年の公職選挙法等の改正により、選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられ、未来の日本の在り方を決める政治について、より多くの世代の声を反映することが可能となった。今後は、これまで以上に、国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力や根拠をもって自分の考えを主張し、説得する力を育むことが重要となってくる。

以上のように、普遍的、そして今日的な観点からも、今まで以上に生徒の社会参画のための知識・技能・態度を育む教育、すなわち「主権者教育」を推進することが現代の学校教育の命題であるといえる。

## 3 主権者教育とN I E～主権者教育を支えるN I E～

「主権者教育の推進に関する検討チーム中間報告（文科省：2016/03/31）」によると、主権者教育の目的を「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせること」としている。このことは、教育基本法で述べられている教育の目的と同義であり、学校においては、今まで以上に「平和で民主的な国家及び社会の形成者育成」を強く意識した教育が求められているということに他ならない。

N I Eによって高められる資質・能力は、語彙力、読解力、批判的思考力、社会的認知等、多岐にわたり、これらは、いずれも主権者教育の目的の達成に資するものである。しかし、本来これらは、各教科の授業をはじめ、生徒会活動や各行事など、教育課程全体を通して育まれるものでもある。このことから、学校教育においては、主権者教育におけるN I Eの位置づけを各教科や教育活動で育まれた知識や技能、態度などの諸能力を横断的に結び付け、強化する機能を有した教育活動とすることが望ましいと考え、本主題と副題を上記の通り設定した。

## 4 実践の方向性

本校においては、NIEを、知識・技能・態度など各教育活動の成果を結び付け、強化するために、昨年度から学校総体の実践を推進するための環境整備に、次の視点で取り組んできた。

### (1) 「新聞に慣れ親しむ」ための環境整備

「生徒と新聞を結び付ける」ことで、「生徒と教師の結び付き」が促進され、その結果「生徒と社会が結び付く」ことが期待できるような、物的（ハード面）・人的・制度的（ソフト面）の整備に取り組む。

### (2) 主権者として必要な力を育成するためのしくみと指導体制の構築

学校総体の実践を推進するために全ての教職員、生徒と共有できる明確な目標を設定することが重要である。そこで、これからの主権者として求められる力を育成するという目標を共有し、協働体制を構築するための工夫を行う。

### (3) NIEに対する教職員の意識の共有と指導力向上のための実践

教職員のNIEについての理解や指導力を向上させることをねらいとして、理論研修や実践公開を積極的に行う。

## 5 実践の実際

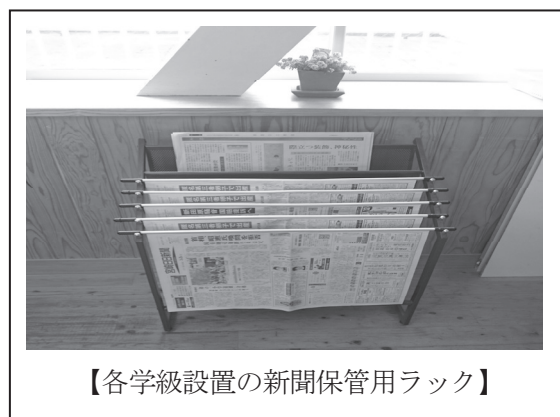
### (1) 物的環境の整備と工夫～ハード面の整備～

#### ① 新聞配付から保管までの流れ

毎朝届く新聞は、職員室前棚に学級ごとに陳列し、NIE担当生徒（チームNIEメンバー）が取りにくるようにした。また、学級では昨年度購入した新聞紙専用ラックに1週間分を順次入れ替えながら保管した。さらに各新聞社の記事の読み比べができる専用の閲覧場所を設け、生徒がいつでも各社の読み比べ等ができるように工夫した。

#### ② 掲示板の活用

生徒の興味・関心を高めるための手立てとして、NIEコーナーを4カ所（全校・各学年フロア）に設けた。学年のフロアには、生徒が作成した新聞記事をベースにしたオリジナル記事（スピーチ原稿）を掲示（各学級の帰りの会で発表後）し、広く（多様な）記事に対する読み取り方を参考にできるようにした。



## (2) 人的環境の整備と工夫～指導・支援・協働体制の構築～

### ① チームNIEの活用

学校総体としてのNIE推進を目指し、本年度も各学級のNIE推進リーダーとしてのチームNIEを編制した。チームNIEのメンバー構成は、昨年度の反省を受け、各学級から2名ずつとし、メンバーの欠席等により活動が滞ることがないようにした。また、職員からも各学年代表(学年担当者)を選出し、取組状況を学年・全校で共有できるようにした。

### ② 学級担任・副担任の協働

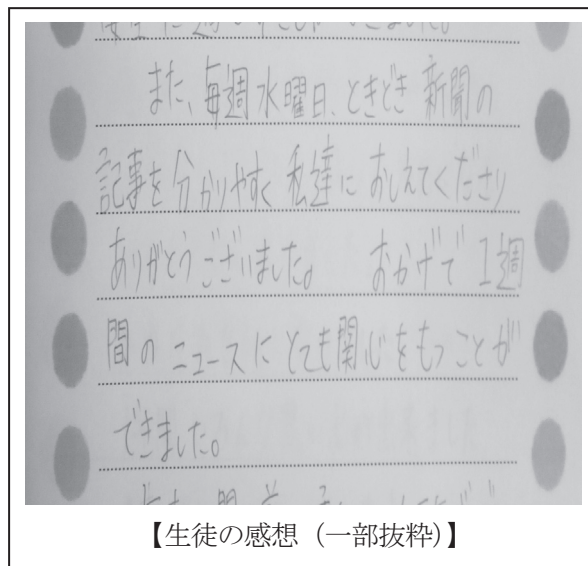
帰りの会で行う生徒スピーチに対する指導は、本年度も昨年度同様に学級担任と副担任による協働体制をとった。副担任による原稿作成及び発表指導、学級担任によるスピーチへの補足や講評を行い、全生徒・全職員が同じ意識で参画するよう心がけた。



## (3) 制度面の整備と工夫～生徒と新聞を結び付けるしくみの構築と運用～

### ① 今週の気になる記事紹介

本年度は、職員がさらに新聞に触れる機会を増やすための取組として、毎週水曜日を職員による「今週の気になる記事の紹介」を新たに設けた。



### ② 帰りの会の1分間スピーチ

NIE実践開始来のメイン活動である帰りの会でのオリジナル記事発表(スピーチ)は、本年度も学級毎に全生徒による輪番制で実施した。担当生徒は、発表日までに記事を作成する。その際に単に新聞を読むだけでなく、記事の内容を基に自分の考えを整理し、主張することができるよう、「記事の要約」、「記事選択の理由」、「主張したい事」等の視点で作成を行う。また、学年の発達段階を考慮し、学年独自の視点も設けた。作成した記事は、副担任による添削等の個別指導で高めたい力を伸ばす手立てをとった。

資料1 オリジナル記事（スピーチ原稿）作成の視点	
【各学年共通項目】	①記事の要約 ②記事を選んだ理由
【1年生独自の項目】	①感想（感動したこと・驚いたこと・疑問に思ったこと）
【2・3年生共通項目】	①みんなに伝えたいこと
【3年生独自の項目】	①自由記述欄

資料2 高めたい力	生徒に身に付けさせたい力 状 態
計画する力	見通しをもって、準備ができているか。
書く力	正しい文字・文法で文章を書くことができているか。
読み取る力①	事実を正確に読み取っているか。
読み取る力②	正しく解釈しているか。（事実と考えを混同していないか）
批判的思考力①	様々な視点から考えているか。（比較・分類・関連・一般化・具体・類推）
批判的思考力②	自分なりの提案をしているか。（推測・多面・批判・統合・反証）
伝える力	相手に伝わるように発表することができているか。

(4) その他～教科等における実践及び新聞活用例～

- ・国語科 → 社説の視写を読み、感想文作成、作成した生徒作品の投稿
- ・家庭科 → 家庭について学ぶための参考資料 ・英語科 → 英語問答活動の資料
- ・保健体育科 → 保健分野・体育理論の分析資料 ・道徳 → 読み物資料
- ・社会科 → 新聞記事に登場した地名を地図帳で探す活動
- ・総合的な学習の時間 → 職場訪問新聞作成の参考資料（1年）修学旅行新聞作成の参考資料（2年）
- ・定期テスト時 → 時事問題として出題（社会科・保健体育科）

体育理論（1年生）：スポーツの多様な関わりで使用したワークシート（一部抜粋）

○ 資料①～⑦を見て、運動やスポーツにどのように関わっているか分類して、発表しよう。

資料①	資料②
	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>提示された資料（写真）から、スポーツへの多様な関わりについて考える。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">抜粋</div>	

## 6 取組を通しての感想

本年度は、これまでの取組を継続しつつ、課題であった点について、さらに工夫した取組を実施することができた。新聞（世の中の出来事）に興味・関心をもつ生徒が増え、職員も新聞に触れる機会が増すなど多くの成果が見られた。

一方で生徒の読み書きに関する困り感への有効な手立て等、今後も工夫改善が必要とされる課題も残った。実践が軌道に乗ってからも実践自体が目的にならないようにしなければならないと感じた。